

1 概要

目的：東京における共通課題や取組、協議会活動の活性化策などについて、本会議での検討等を踏まえた講演等を実施し、広く関係者へ情報発信を行い、自立支援協議会活動の普及啓発を図る。

日時：平成30年12月12日（水曜日）13時30分から16時30分まで

場所：練馬区立区民・産業プラザCoconeriホール

対象者：一般都民、障害当事者・家族、地域自立支援協議会委員・事務局関係者、区市町村職員、相談支援事業所等職員、障害者支援に携わる者、その他

広報：チラシの作成・配布（約4,000枚）
当センター、東京都障害者サービス情報ホームページへの掲載
区市町村主管課長会等での説明、周知依頼
「福祉保健」10月号掲載、区市町村広報誌等への掲載依頼

参加者数：286名

(1) 受講者 246名（申込者 322名）

所属等別内訳（複数該当があるため、受講者数と一致しない。）

所属等	人数
障害当事者・家族	14名
相談支援事業所	92名
障害福祉サービス等事業所	73名
就労支援機関等	10名
医療機関	6名
入所施設等	19名
地域自立支援協議会委員等関係者	21名
民生委員・児童委員	7名
行政	56名
その他	16名
合計	314名

(2) 聴講者 40名

- ・東京都自立支援協議会委員
- ・東京都自立支援協議会連絡調整会議委員
- ・東京都心身障害者福祉センター職員
- ・東京都自立支援協議会委員及び登壇者の支援者

2 プログラム

テーマ 地域移行・地域生活のリアルとハウツー
～障がいのある人が地域で安心して暮らすために～

第1部 基調講演 「今、なぜ、地域移行なのか」

<講師>

吉野 智 氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害福祉専門官）

（概要）

精神保健医療福祉の動向、障害福祉施策の動向、障害福祉計画等と国の基本指針、平成30年度障害福祉サービス等報酬改定などに関する講演

- ・政策上、地域移行というと病院や施設からの地域移行だが、地域包括ケアシステムを主眼に考えれば、病院や施設の機能も含めて障害者の方がどのような生活を望んでいるのかが大切
- ・どのような生活を望んでいるのかを知るためには、その意思の表明をしっかりと受け取っていかなければならない。
- ・自立支援協議会の中で、行政と医療と福祉がしっかりと膝を突き合わせて考えながら、当事者の方を中心に、どのような街づくりをしていくかを議論していくことが大切

第2部 パネルディスカッション

「知りたい、聞きたい、伝えたい！地域移行・地域生活のホンネ」

<パネリスト>

海老原 宏美 氏（東京都自立支援協議会副会長
特定非営利活動法人自立生活センター・東大和理事長）

村中 友江 氏

久保 玄 氏（社会福祉法人原町成年寮 サザンクロスかつしか所長）

西 美紀子 氏

小貫 菜々 氏（相談支援センターあらかわ 地域移行コーディネーター）

<コーディネーター>

岩本 操 氏（東京都自立支援協議会会長、武蔵野大学人間科学部人間科学科教授）

<コメンテーター>

吉野 智 氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課 障害福祉専門官）

（概要）

当事者及び支援者それぞれの立場から、地域移行・地域生活に至るまでの経緯や、地域移行・地域生活をしたいと思った理由、現在の地域生活の状況等に関する発表とディスカッション

平成30年度 東京都自立支援協議会セミナー 実施報告

3 プログラム構成のねらい

(第1回本会議グループ討議及び実行委員による検討より)

1 当事者性

- 昨年度は当事者性みたいなものが、十分ではなかったのではないかな。
- できるだけいろいろな方に参加していただき、一方的な発信ではなく、意見交換ができるような形にできたらいい。当事者の方の意見、当事者の声をもっと前面に出していただき、地域で生きにくさを抱えている人達の声や生活の有り様を支援者側がどう受け止めて、地域の取組に繋げていけるか、参加者みんなで考えるセミナーにしたい。
- 当事者の方を主役としたパネルディスカッションができると、その場にいる人達との距離がぐっと近くなるのを感じられるので、できれば当事者の方を中心にしたい。
- 当事者の方を中心に、実際の生活にまつわる様々なエピソードや創意工夫などを持ち寄っていただき、その中から我々でもできるような取組をみんなで学び合うことができれば良いのではないかな。

2 地域移行、地域生活

- 地域移行の問題、地域生活のリアルみたいなところ、所得補償の問題、住居の問題、医療・健康の問題などを取り上げられると良いのではないかな。
- 精神障害者の長期入院の問題がある。地域移行がなぜ進まないか。進められない背景には精神障害者への差別の問題が潜んでいるのではないかなと思うので、いろいろと掘り下げる内容として、地域移行をテーマにするのはいいのではないかな。
- 地域で生活する方に対してサービスの支給決定が行われるが、支給決定では補えないものが日常生活にはたくさんある。ちょっとした手助けを活性化し、地域がその人をどう支えていくかというところに繋がるといい。
- 当事者の方と支える人達とで、こんな工夫をしたらこんなふうに住生活できたという話をしてもらい、それだったらうちの地域でもできそうと思ってもらえたら良い。できれば地域で生活する当事者の方と支援者の方達、近所の皆さんのような発表ができれば良いのではないかな。

4 参加者アンケート

回答数：190 (回収率：66.7%)

第1部 基調講演

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
69 (36.3%)	96 (50.5%)	20 (10.5%)	2 (1.1%)	0 (0.0%)	3 (1.6%)

<自由意見>

- 「地域移行」というと精神障害にスポットが当たりやすい。知的障害、身体障害の方へのアプローチ、また、地域でのサービスの充足など課題は多い。協議会としてどうアプローチしていけるか、市内でどう全体化していけるかが課題であると思った。
- 現在の障害者福祉の方向性について、より理解を深めることができた。一方、時間の関係もあると思うが、話の進め方がやや急ぎ足だったことは残念だった。

第2部 パネルディスカッション

大変参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	無回答
115 (60.5%)	59 (31.1%)	7 (3.7%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	9 (4.7%)

<自由意見>

- 意思決定には体験やイメージが大切なこと、伝えることが難しい人だからと移行しない口実にはいけないことを学んだ。何よりも、ご本人達の状況をご本人達の言葉で聞くことができたのは貴重な体験だった。
- 当事者の話を聞ける機会はあまりないので、良い機会だった。とても心に響いた。今後の支援につなげたりモチベーションを上げたりしていきたい。
- 障害者の生きる力、何を知りたいか、それらをどう引き出すか、同じ目線で一緒に考えていくことの大切さを教わった気がする。
- 地域移行前後の当事者のリアルな状況が理解できた。利用後、生活が豊かに変化してきていると見てとれた。